

提言「新たな情報化時代の人文的アジア研究に向けて  
—対外発信の促進と持続可能な研究者養成—」

## 1 現状及び問題点

人文学や社会科学の諸研究は、メタ・データの処理や大型のデータベースの構築が進み、個々の研究分野でもアクセスが必須とされる大型コンテンツが出現した。しかし、第1に、これらのコンテンツへのアクセスは有料であることが多く、アクセス権の有無が研究条件に大きな差異を生む状況となった。第2に、これらのデータベースへの掲載の有無が、その資料の利用頻度と研究の質に大きな影響を与えている。第3に、大型データベースの整備が遅れた国や地域の研究成果は発信力を失いつつある。

## 2 提言の内容

### (1) アジア研究情報に対するアクセスの平等性の確保

アジア研究情報の発信には、研究成果と一次資料の発信という両面がある。データベースの現況を精査の上、国会図書館や専門分野の研究拠点となる大学や研究機関に対してデータベースアクセスのための持続的な予算措置を国や自治体は講じるべきである。

### (2) 日本からのアジア研究情報の発信

第1に、学会誌や紀要などのデジタル化とウェブ上での無料あるいは廉価での公開を促進する必要がある。第2に、英語での対外発信を促進するため、専門的な内容に対応できる翻訳者の育成と翻訳経費の確保が必須である。第3にまた、アジア各地の現地語での発信を行う若手研究者の能力向上、翻訳事業の促進が期待される。

### (3) 長期的な研究者養成とアジア研究の社会的基盤形成

第1に、アジア諸言語で書かれた重要な文献群の翻訳支援、関連図書館や国際交流業務等を担う専門職員の配置を促し、長期的な視野に立って研究者を養成する必要がある。第2に、現代のアジアと日本を理解するために有効な教材の開発を支援するとともに、日本の人文的アジア研究の優れた成果を、書籍やデジタル媒体等により学校教育と社会教育に還元し、幅広い世代にアジア関連の学習・研究の機会を提供することが期待される。